

令和2年度第1回青森県立郷土館協議会について（会議概要）

令和2年度第1回青森県立郷土館協議会が開催されましたので、その内容をお知らせします。

1 日 時

令和2年7月13日（月） 午後1時30分～3時25分

2 場 所

青森県立郷土館 小ホール

3 案件

- (1) 令和元年度事業実施状況及び利用状況について
- (2) 令和2年度事業計画等について
- (3) 青森県立郷土館の博物館評価について
- (4) 令和元年度第2回郷土館協議会における委員からの意見に対する対応等について

4 委員からの主な意見

- アンケート結果についての分析、考察結果なども資料に載せてもらえれば分かりやすいと思う。
- 企画展にしても特別展にしても、指定管理者の主催事業にしても、目玉になるものが少し弱いのではないか思った。目玉がわかる展示や郷土館の想いを伝える展示を期待している。
- ホームページにあるクイズが凄くおもしろいと思うし、子どもたちにも紹介したい。一方で、これからは年配の人たちももっとウェブを利用していくと思うが、少しわかりづらいところもあるので改善し、わかりやすく、楽しめるものをどんどん発信してほしいと思う。
- 今年の春の企画展が中止になったが、その資料が見たかったので、ホームページにその一部でもトピックスで載せると次につながるかなと感じた。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の取組は非常に細やかによくやっていると思う。
- コーヒーのおいしく飲める場所とミュージアムショップの検討をお願いしたい。こういうスペースに力を入れている博物館は多いと思う。
- 資料や今まで発行した図録について、写真をたくさん使うなどウェブでいろいろ見られるようにして、本物は見に来てもらえるようにもっと積極的にPRし、利用者を館に呼び込めるようにしたらよいと思う。

- 新型コロナウイルスについては、本当に皆さんが苦勞していることがよく分かった。それにめげずに創意工夫でいいものを作ってほしい。
- 金魚美抄展について、若い人たちも金魚が好きなので博物館に興味を持つきっかけになるかもしれない。大いにPRしてやってほしい。
- 新型コロナウイルスに関して、感染症などを乗り越えてきた歴史や昔からの知恵などを展示できたら博物館らしくてよいと思う。
- 縄文遺跡群が来年世界遺産になるかもしれないので、その時期に、縄文だけでなく日本に4つしかない世界自然遺産である白神山地も含めての展示をして県民の意識を高めていければいいと思う。
- 体験学習プログラム「見て、聴いて、触れて学ぶ」は、出前授業にもたくさん触れていてよいと思うし、新型コロナウイルス感染症の関係で校外学習が制限されている中、インターネットでの遠隔授業もありがたいと思う。
- 出前授業をウェブで双方向でやりとりする形でできれば凄くいいと思う。また、新型コロナウイルス感染症の関係で臨時休校になった時に、子どもたちが調べ学習や自学ができるように、双方向ではない郷土館の学芸員による授業動画の作成もありがたいと思う。
- 出前授業の場合、資料の大きさなどによって持って行けないものもあると思うが、双方向でウェブで授業を行う場合、持っていけないものも見せてあげられるし、質疑応答などのやりとりもできるのは新型コロナウイルス感染症対策のためだけではなく、出前授業の発展にもつながると思う。設備環境が課題になるのであれば、スクリーン等を一式貸し出すことも考えてみてはどうか。
- アンケートの回答者数については、多い方が利用者の意見等をより正確に把握できると思うので、増えるように検討してほしい。
- 施設の有効利用というか、コーヒーコーナーの設置やよりわかりやすい館内の案内の工夫など、すぐにはいかないものについて、必要であれば一般の方たちを巻き込んで意見を聴くなりして具体的に進めてほしいと思う。
- 施設の長寿命化に向けた耐震診断の結果によっては長期の休館も予想されるが、工事をするにあたっては、このせっかくの凄くいい建物の景観を損なわないような補強をしてほしい。
- 青森の魅力は考古もあると思うが民俗を展示できるのは郷土館しかないと思うので、もし、50周年などで改修工事をするなら配置換えを検討して、民俗を2階に持ってくると、さらに魅力的な館になるのではないかと思う。

- 館内を見て回ると疲れるので、背もたれがあるイスが各展示室にあればいいと思う。
- 団体料金は20人以上となっているが、今だと多いと思うので、人数の引き下げを検討してほしい。
- 前回の協議会でも話したとおり、郷土館が創立された50年前と今では、博物館活動も相当変化してきており、古い建物であることや収蔵庫の問題など課題も抱えている。まもなく迎える50周年にあたって、総合博物館という役割や在り方を郷土館自体が考える必要があると思うことから、郷土館職員の皆で議論した「新たな総合博物館像」をこの協議会に諮問し、答申する場を作ることが、諮問・答申機関である本協議会の役割である。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のためではあるが、「展示物に触らない。」ということが何年も続くようだと、幼い子や障害のある方の利用に影響があると思う。資料に触れることは大切だし、触れられないものについては、明確な表示や音声ガイドなど、いろいろな発想を広げて誰もが楽しめる博物館を先々考えていってほしい。